

<http://www.ishizaka.gr.jp/>



石坂グループ
環境活動レポート



2012

環境方針

私たち石坂グループは、
リサイクル事業及び廃棄物処理事業を通じ、
業界のリーディングカンパニーとして、
地域・社会の環境保全への取組みをサポートし、

環境に責任の持てる企業として有益な環境活動を追及いたします。

- 1 取扱品目全般において、環境負荷の軽減、エネルギーの知的利用の促進、コスト削減の追及を実施し、最適な企業活動を目指します。
- 2 事業活動の定期的見直しを実施し、継続的改善・汚染の予防・環境負荷の軽減を第一に事業活動を実施いたします。
- 3 環境企業として、子供達の環境教育を積極的に実践し、施設の一般公開・情報の開示を推進いたします。
- 4 当社において、有効資源の活用・確保を推進し、最終処分廃棄物の削減、有効利用の促進につなげます。
- 5 環境関連法規及び、同意したその他の要求事項を、すべて順守し、業界のレベルアップ・モラルの向上を目指します。
- 6 この環境方針は、当組合の環境活動の指針として全従業員に周知し、関連する一般の方すべてに公開致します。

2010年9月1日
有価物回収協業組合 石坂グループ
理事長 石坂孝光

事業概要

名称
有価物回収協業組合 石坂グループ

所在地
本 社 工 場：熊本県熊本市東区戸島町2874番地
大津事業所：熊本県菊池郡大津町杉水3746番地
西部事業所：熊本県熊本市西区上代町7丁目28-11

代表理事
代表理事 石坂孝光

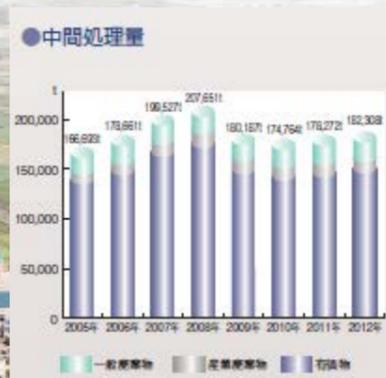
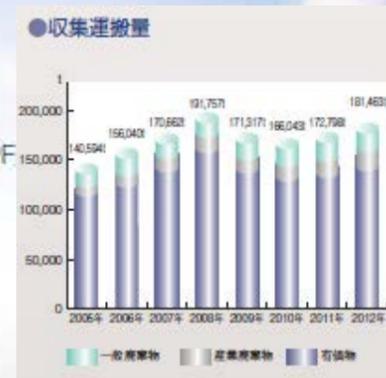
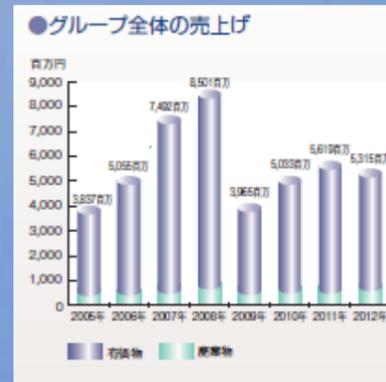
設立
設 立 昭和54年5月24日

出資金
出資金 7,000万円

事業内容

- 有価物（製鋼原料、製紙原料、各種非鉄、ガラスカレット、RPF等）の回収・販売
- 一般廃棄物の収集運搬、リサイクル、処理
- 産業廃棄物の収集運搬、リサイクル、処理
- 廃棄物リサイクルに関するコンサルティング

グループ会社
㈱アイワ有価物処理企業 ㈱石坂商店 ㈱辻崎商店
㈱再生資源リサイクルセンター ㈱石坂容器



環境マネジメントシステム

石坂グループは、本社工場にて、2001年度にISO14001の認証を取得しました。

また、環境保全の一端を担う企業として、石坂グループ全体の環境負荷を把握し、更なる環境への取組や意識の向上をはかるため、2006年度から本社工場に大津事業所及び西部事業所を加えた石坂グループ全体でエコアクション21 (EA21) の取り組みをスタートし、2007年度に認証を取得しました。

エコアクション21の取組体制は、本社工場で構築しているISO14001の環境マネジメントシステムをベースにしています。

環境マネジメントシステム組織図



環境目標と環境活動計画

環境目標

中長期の環境目標は、2011年度実績を基準として、下表のとおり設定しました。

項目	単位	基準年	環境目標			
			2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
工場の二酸化炭素排出量	中間処理量あたり kg-CO ₂ /t	10.50	10.39 (1%削減)	10.29 (2%削減)	10.18 (3%削減)	
収集運搬の二酸化炭素排出量	収集運搬量あたり kg-CO ₂ /t	7.55	7.47 (1%削減)	7.40 (2%削減)	7.32 (3%削減)	
水使用量	中間処理量あたり m ³ /t	0.130	0.129 (1%削減)	0.128 (2%削減)	0.127 (3%削減)	
廃棄物等排出量	リサイクル率 %	98.0	98%以上	98%以上	98%以上	
工場見学、体験学習者	人	1,829	1,829 (現状維持)	1,829 (現状維持)	1,829 (現状維持)	

環境活動計画

環境目標を達成するため、環境活動計画を下表のとおり設定しました。

項目	2012年度	2013年度
工場の二酸化炭素排出量	<ul style="list-style-type: none"> 加工機械時間短縮及び切り替え運転の実施 作業終了時の機械のブレーカーオフの実施 エアコンの使用期間の限定 	<ul style="list-style-type: none"> 加工機械時間短縮及び切り替え運転の実施 作業終了時の機械のブレーカーオフの実施 エアコンの使用期間の限定
収集運搬の二酸化炭素排出量	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップの実施 配車の見直し 稼働率のUP 	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップの実施 配車の見直し 稼働率のUP
水使用量	<ul style="list-style-type: none"> 雨水タンク増設等の設備改善検討 洗車時の雨水使用の促進としよう時間の短縮 節水強化月間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水タンク増設等の設備改善検討 洗車時の雨水使用の促進としよう時間の短縮 節水強化月間の実施
廃棄物等排出量	<ul style="list-style-type: none"> RPF原料化の強化 マテリアル原料化の強化 選別方法・収集方法の改善の強化 	<ul style="list-style-type: none"> RPF原料化の強化 マテリアル原料化の強化 選別方法・収集方法の改善の強化
工場見学、体験学習者	<ul style="list-style-type: none"> 出張体験学習 学校関係への案内 	<ul style="list-style-type: none"> 出張体験学習 学校関係への案内



グループ全体の物質収支

2012年度実績

工場系

エネルギー投入量 (単位: MJ)			上水使用量 (単位: m ³)	
	電気	化石燃料	合計	水使用量
本社工場	19,395,042	12,164,362	31,559,404	12,534
大津事業所	4,717,338	2,039,460	6,756,798	1,334
西部事業所	749,872	622,140	1,372,011	316
合計	24,862,252	14,825,961	39,688,213	14,184

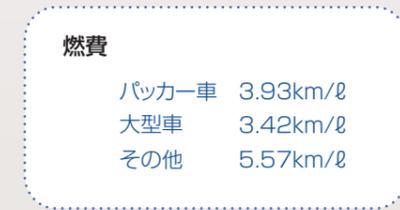


CO ₂ 排出量 (単位: kg-CO ₂)			
	電気 ※3	化石燃料	合計
本社工場	759,623	833,195	1,592,818
大津事業所	184,758	139,159	323,918
西部事業所	29,369	42,582	71,951
合計	973,750	1,014,936	1,988,686

※1 入出荷のタイムラグがあるため、中間処理量=再資源化等量+単純焼却最終処分量にはなっていません。
 ※2 廃棄物から再資源化されたものも含まれます。
 ※3 CO₂の排出係数は、H22年度九州電力のCO₂の実排出係数0.385kg-co₂/kwhを使用しています。この係数は3年間使用します。

輸送系

エネルギー投入量 (単位: MJ)	
	化石燃料
本社工場	17,997,338
大津事業所	2,610,321
西部事業所	316,758
合計	20,924,417



CO ₂ 排出量 (単位: kg-CO ₂)	
	化石燃料
本社工場	1,234,622
大津事業所	179,328
西部事業所	21,761
合計	1,435,711



環境目標と実績

2012年度実績

地球温暖化防止のために

工場及び車両による「二酸化炭素排出量」について、2012年度は、工場及び車両ともに環境目標を達成できませんでした。

工場の環境目標が達成できなかったのは、基準年である2011年度に比べ、古紙の取扱い量が減少したことで、工場の稼働効率が下がったためと考えられます。

水資源保護のために

工場・車両の洗浄及び本社工場の処理工程の「水使用量」について、2012年度は、環境目標を達成できました。

循環型社会形成推進のために

工場からの廃棄物等排出量の「リサイクル率」について、2012年度は、環境目標を達成できました。

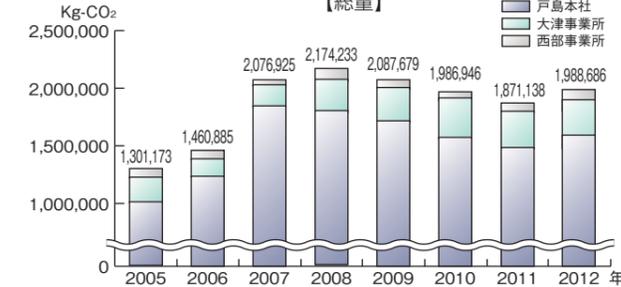
地域・社会貢献のために

工場見学・体験学習者数について、2012年度は、環境目標を達成できました。

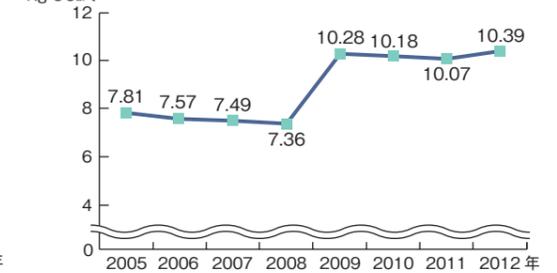
項目	単位	2011年度実績	2012年度		主な環境行動計画	
			目標	実績		
二酸化炭素排出量	工場 総量	kg-CO ₂	1,871,138	—	1,988,686	<ul style="list-style-type: none"> 加工機械時間短縮及び切り替え運転の実施。 作業終了時の機械のブレーカーオフの実施 自家発電設備の使用停止。 アイドリングストップの実施。 急発進、急加速の禁止及び法定速度の厳守。 省燃費運転講習会、メンテナンス向上研修会の実施。
	中間処理量あたり	kg-CO ₂ /t	10.50	10.39 (1%減)	10.91 目標非達成	
	車両 総量	kg-CO ₂	1,304,674	—	1,435,711	
	収集運搬量あたり	kg-CO ₂ /t	7.55	7.47 (1%減)	7.91 目標非達成	
水使用量	総量	m ³	23,270	—	14,184	<ul style="list-style-type: none"> 場内配管等の漏水の有無の確認と補修。 洗車時の雨水使用の促進と使用時間の短縮。 節水強化月間の実施。
	中間処理量あたり	m ³ /t	0.1305	0.1292 (1%減)	0.0778 目標達成	
廃棄物等排出量	再資源化等量	t	175,423	—	181,196	<ul style="list-style-type: none"> 適正処理の推進による、リピーター・固定客の確保。 排出先への廃棄物のリサイクル化への啓蒙啓発活動。 廃棄物の分別及びリサイクル研修会の実施。
	単純焼却最終処分量	t	3,555	—	3,376	
	リサイクル率	%	98.0	98.0	98.2 目標達成	
地域・社会貢献	工場見学・体験学習者数	人	1,829	1,829	2,328 目標達成	<ul style="list-style-type: none"> 行政や学校に対し、工場見学等を受け入れていることを宣伝する。

※環境目標は、2008年度実績を元に設定しています。

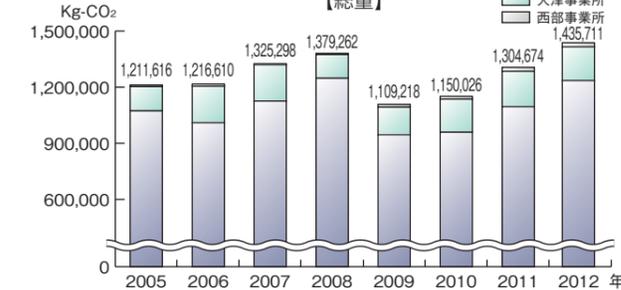
CO₂排出量(工場)



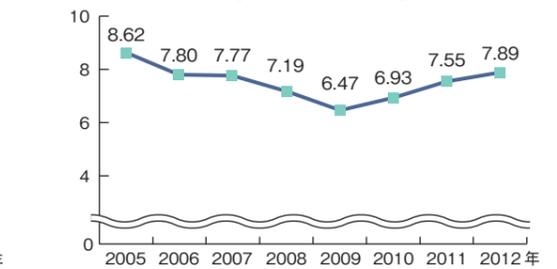
【中間処理量あたり】



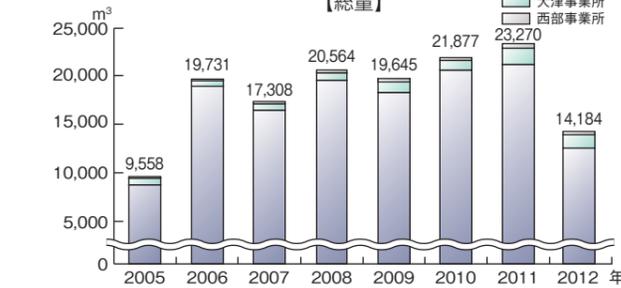
CO₂排出量(車両)



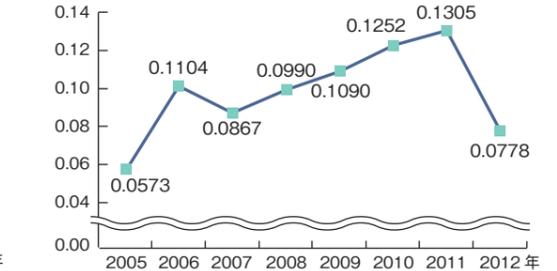
【収集運搬量あたり】



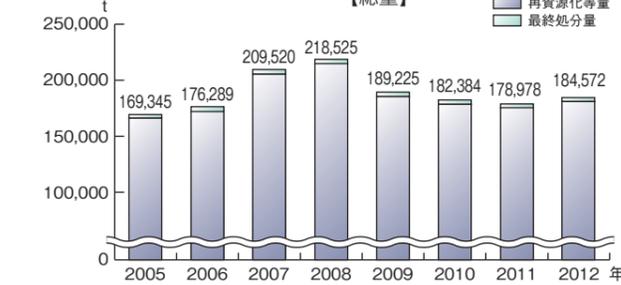
水使用量



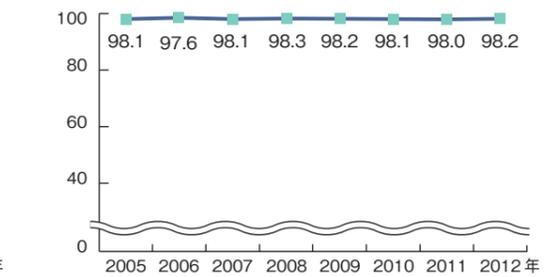
【中間処理量あたり】



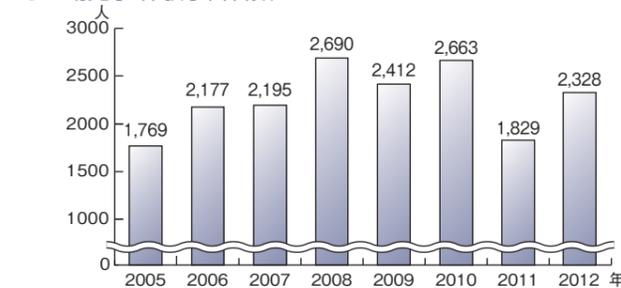
リサイクル率



【リサイクル率】



工場見学・体験学習者数





環境関連法規等の遵守状況

ISO-EA21事務局及び部門長は、年1回、順法性の確認を行い、環境記録として保管しています。問題が発見された場合は、環境管理責任者の下、是正処置及び予防処置を実施しています。

2012年度は、当社グループによる環境関連法規違反、環境に重大な影響を与える事故、訴訟等はありませんでした(別紙参照)。

許可の取得状況については、最新情報を以下の情報公開ページにて公開しています。

情報公開ページ http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index_u2.php?UserID=18531

代表者による全体評価と見直しの結果

【全体の評価】

●環境目標の達成状況

環境目標の達成状況は、5つの環境目標に対して達成できたのは3つでした。

目標未達となっているのは、いずれも二酸化炭素排出量でした。これらは、基準年である2011年度に比べ、古紙の取扱量が減少したことで、工場の稼働率が下がったためと思われます。

今後は、経済状況の上昇による事業活動の活性化と、具体的な指示や教育を実施できる部門長・環境委員の育成を行っていきます。

●環境活動計画の実施及び運用結果

おおむね計画通り実施できていましたが、二酸化炭素排出量については、環境目標の達成にはつながりませんでした。

●環境関連法規等の遵守状況

遵守評価の結果、すべての環境関連法規等を遵守できていました。

●外部からの環境に関する苦情や要望など

本年も取引先企業からの視察、自治会訪問、体験学習など多くの訪問を受け、取引先企業からの遵守事項の対応など多くのコミュニケーションが実施されました。

また、苦情・クレーム等については、収集運搬工程の中で、一般の方からの運転、態度等での指摘を受け、破損事故等も多く発生したため、輸送部の再教育を実施し、今後の発生抑制に努めます。

【見直しの結果】

東京オリンピックも決まり、今後の経済活動の改善が見込まれる中、今まで停滞していた取扱量・収益の改善を図るチャンスと考えられる。

この環境を利用し、環境負荷の軽減を念頭に、取り組みを強化してほしい。

- ・環境方針:変更の必要はないものと判断する。
- ・環境目標:変更の必要はないものと判断する。
- ・環境経営システム:当面このまま維持する。

地域・社会貢献活動

工場見学・体験学習

地元地域、社会貢献活動として、工場見学や体験学習を積極的に受入れています。2012年度は、2,328名の見学者・体験学習者を受け入れました。



第13回東部リサイクルフェスタ2012

2012年10月28日(日)に開催された、有明広域行政事務組合主催の『東部リサイクルフェスタ2012』に紙すき体験で出展しました。



TKUの日2013 in わくわく江津湖フェスタ

2013年5月11日(土)、12日(日)に開催された、テレビ熊本主催の『TKUの日2013』に環境教室で出展しました。





社員教育・訓練

環境に関する教育

一般教育 (管理者研修)	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針及び手順並びに環境マネジメントシステムの要求事項に適合することの重要性 作業活動による顕在又は潜在の著しい環境影響及び各人の作業改善による環境上の利点 環境方針及び手順との適合、並びに緊急事態への準備及び対応の要求事項を含む環境マネジメントシステムの要求事項との適合を達成するための役割及び責任 規程された運用手順から逸脱した際に予想される結果
力量教育 (従業員研修)	著しい環境側面に関する業務を適切に実施運用するための技能 部門専任者訓練 ・規程された運用手順から逸脱した際に予想される結果 内部監査員研修 ・環境マネジメントシステム監査に必要な知識・技術の習得 専門技術者講習 ・業務上取得が必要な技能講習、免許、資格



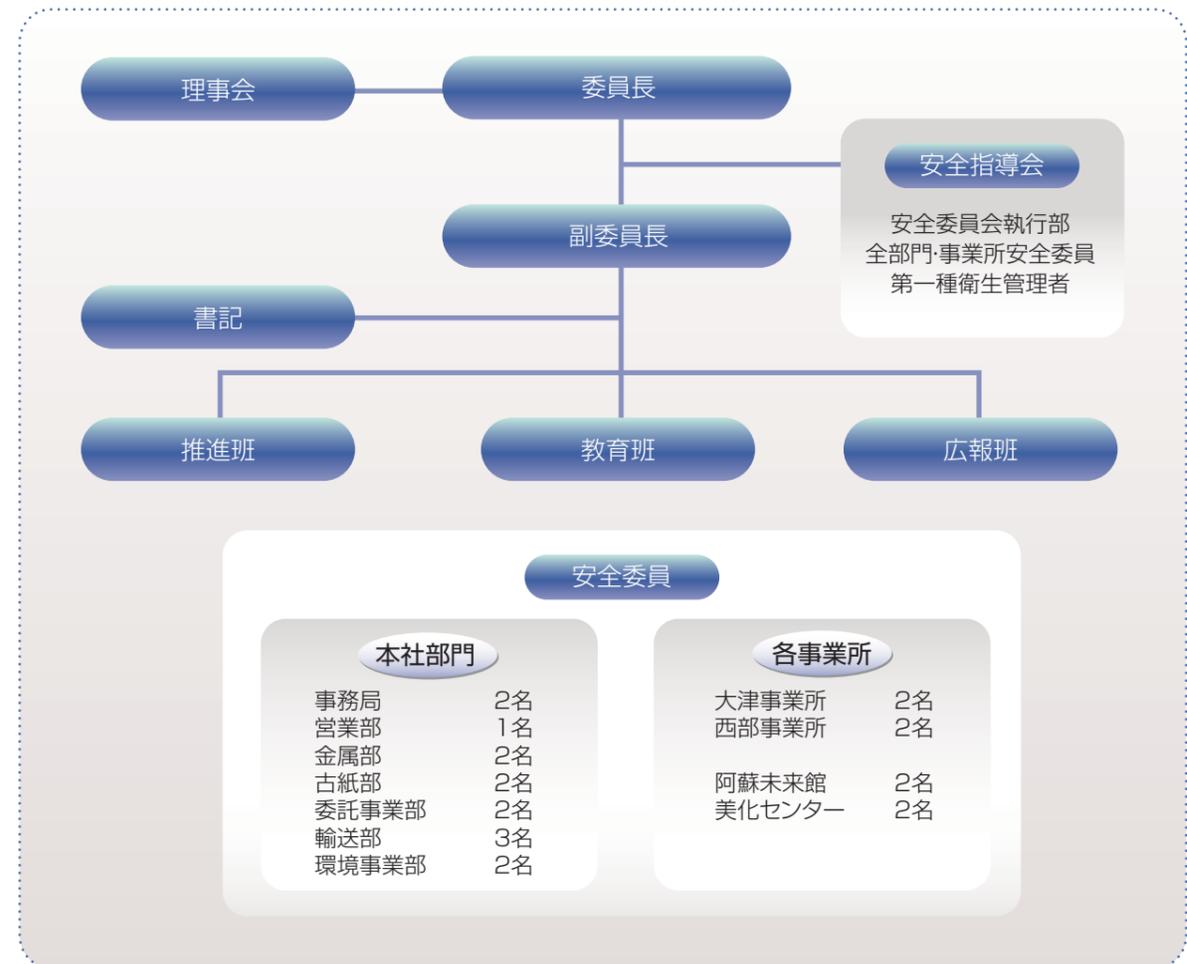
区分/種類	教育内容	実施責任者	対象者	年度												教材及び備考	
				10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		
一般教育 (管理者研修)	・環境方針及び手順並びに環境マネジメントシステムの要求事項に適合することの重要性 ・作業活動による顕在又は潜在の著しい環境影響及び各人の作業改善による環境上の利点 ・環境方針及び手順との適合、並びに緊急事態への準備及び対応の要求事項を含む環境マネジメントシステムの要求事項との適合を達成するための役割及び責任 ・規程された運用手順から逸脱した際に予想される結果	環境管理責任者 (外部コンサルタント)	役員 部門長														研修用テキスト ISO取得の意味・必要性 役割・プロセス重点的 に研修
力量教育 (従業員研修)	・環境方針及び手順並びに環境マネジメントシステムの要求事項に適合することの重要性 ・作業活動による顕在又は潜在の著しい環境影響及び各人の作業改善による環境上の利点 ・環境方針及び手順との適合、並びに緊急事態への準備及び対応の要求事項を含む環境マネジメントシステムの要求事項との適合を達成するための役割及び責任 ・規程された運用手順から逸脱した際に予想される結果	環境管理責任者 ISO事務局	従業員	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	一般教育テキスト 向部/以下各部門について は一般教育を各 職に実施する 環境利用管理手冊書 廃棄物管理手冊書 緊急事態手冊書 火災発生時対応手冊書 命令の役割・自覚・責任に 重点をおく研修

労働安全衛生の取組み

石坂グループでは、労働安全委員会を組織し、年間労働安全衛生スケジュールを作成して、環境への取り組み同様、労働安全衛生についても計画的に取り組んでいます。

事故・ケガについては、安全指導会で原因究明・対策の指示を行い、再発防止に努めています。

労働安全委員会組織表



主な労働安全衛生活動

労働安全委員会	毎月1回
安全教育	年4回
安全週間	年1回
各種表彰	年1回
各種見直し	年1回





許可取得状況一覧

主な資格取得者数

(平成25年9月現在)

産業廃棄物収集運搬	12名	車両系建設機械運転技術(整地)	44名
産業廃棄物処分	4名	車両系建設機械運転技術(解体)	3名
特別管理産業廃棄物収集運搬	12名	小型車両系建設機械運転技術	12名
技術管理士(中間処理施設)	2名	小型移動式クレーン運転技術	43名
技術管理士(破碎・リサイクル)	8名	玉掛け技能	41名
ごみ処理施設技術管理士	2名	クレーン運転業務	15名
一般廃棄物事業者(収集運搬・処分)	1名	はい作業主任技術者	8名
冷媒回収技術者	8名	ガス溶接	29名
環境カウンセラー	3名	安全運転管理者	3名
第一種衛生管理者	1名	高所作業	13名
特定化学物質作業主任者	5名	運行管理者	9名
危険物取扱保安責任者(乙種四類)	3名	解体工事施工技士	1名
危険物取扱保安責任者(丙種四類)	8名	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	4名
甲種防火管理者	9名	アーク溶接技能講習	5名
フォークリフト運転技術	104名	ボイラー取扱作業主任者	2名
ショベルローダー等運転技術	67名		

登録・許可証

熊本県廃棄物再生事業所登録

熊本市リサイクル事業者認定

熊本市・大津町一般廃棄物処分業許可

熊本県・熊本市産業廃棄物処分業許可証

熊本市・合志市・菊池市・大津町・
益城町・菊陽町一般廃棄物収集・運搬業許可証

熊本県・福岡県・佐賀県・大分県・
山口県・熊本市・福岡市・北九州市・
大牟田市・大分市・鹿児島県・鹿児島市
産業廃棄物収集・運搬業許可証

熊本県公認計量証明事業所

◆ 本レポートについて ◆

■ 2013年9月発行 第7版

■ 対象取組期間/2011年12月~2012年11月

■ 編集担当者/EA21事務局 草野哲示、佐藤万里子



21世紀のリサイクルシステムをサポートする
有価物回収協業組合
石坂グループ
0800-200-5501

ホームページ：<http://www.ishizaka.gr.jp>
メール：info@ishizaka.gr.jp



● 本社工場

熊本県熊本市東区戸島町 2874 番地

本社工場：
TEL. 096(389)5501 FAX. 096(389)5502
環境事業部直通番号：
TEL. 096(389)5517 FAX. 096(349)7225
家電品処理センター：TEL. 096(389)7711

● 大津事業所

熊本県菊池郡大津町杉水 3746 番地
TEL. 096(293)0561 FAX. 096(293)0943



● 西部事業所

熊本県熊本市西区上代町 7 丁目 28-11
TEL. 096(329)2002 FAX. 096(329)2003

